

虹の架橋

今月の題字

柴崎 明 さん

(みどり市大間々町1丁目)

町づくりの委員会や三方良しの会の仲間
で創業百数十年の老舗・松屋旅館の
5代目当主。ランチタイムの味噌タン
メンやソースかつ丼がオススメです。

虹の架橋

検索で、

インターネットからでもご覧いただけます。

第四回大間々学講座 「大間々あきんど物語」

第四回大間々学講座は、「百年
後まで語り継がれる創生落語・大
間々あきんど物語」というテーマ
で、いきいきセンターで開催いた
します。第一部は、みどり市市制
十周年を記念して制作した創生落
語の実行委員長・松島弘平さんが
「創生落語誕生秘話」と題して、
「石原和三郎」、「大間々あきん
ど」、「岡上景能」の三つの新作落
語を制作した意図や裏話などを披
露します。第二部は、真打落語
家・三遊亭萬橋師匠が落語「おお
まあきんど物語」を語ります。



興味しんしん大間々学講座

日時：12月17日(日)
午後6時半から
場所：いきいきセンター
0277-72-1765
講師：松島弘平さん
三遊亭萬橋師匠
主催：致知の会
「三方良し」の会
参加費無料(先着80名)
お申込みは12月1日から
足利屋で0277-73-1212

争わない生き方



小耳にはさんだ

《268》

「ベテラン弁護士の『争わない
生き方』が道を開く」(ぱる出
版)という本を読みました。著
者の西中務さんは、弁護士とし
ての四十五年間の経験から、
「争う心からは幸せは生まれな
い」と断言しています。

本の中に「ウサギとカメ」
の話がありました。「ウサギ
は、カメと自分を比較して、
自分の方が速いから少しくら
い休憩しても大丈夫だと思っ
たから居眠りをしたのです。
けれどもカメは一度もウサギ
と自分を比べたりはしませ
でした。ただひたすらゴール
だけを目指して走り続けたか
ら勝てたのです。『一切の悩
みは比較より生じる』という
のは国民教育者森信三先生の
言葉です。全ての悩みの原因
は他人と比較することです」
と西中さんは書いています。

そして、両親や先祖を大切
にし、常に感謝の心を持つこ
とが大切だといっています。
作家の吉川英治さんは、
「私にはもう両親はいない
が、会おうと思えばいつでも
会うことができる。それに
は、私の脈をとるのです。私
の体の中に、両親も先祖も生
きてくれており、一度も切れ
ないで続いてくれているので
す」と語っていたそうです。

そして、両親や先祖を大切
にし、常に感謝の心を持つこ
とが大切だといっています。
作家の吉川英治さんは、
「私にはもう両親はいない
が、会おうと思えばいつでも
会うことができる。それに
は、私の脈をとるのです。私
の体の中に、両親も先祖も生
きてくれており、一度も切れ
ないで続いてくれているので
す」と語っていたそうです。

第二六九号は一月一日(月)発行予定です。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館



今月の押し花《二六八》
庄村昌子さん「クリスマスローズ」

虹の架橋の創刊当初からの読者でもある押し
花作家の庄村昌子さんの作品展が今年も東京日
本橋で開かれました。庄村さんの押し花はパリ
ルーブル美術館で印象派賞を受賞しています。
ラジオ深夜便に出演した庄村さんは、「花は
与えられた場所で精いっぱい命を全うします。
私もそんなふうに生きたいと願っています。毎日
アトリエで、花とおしゃべりしています」と
言っていました。クリスマスローズの押し花が
とても気に入りました。クリスマスローズの花
言葉は「いたわり」「追憶」だそうです。

靖ちゃん日記

伊東掃除に学ぶ会の年次大会に
初めて参加した。参加者は二百五
十名。代表の白鳥さんとは十数年
来のお付き合い。去年、大間々駅の
掃除が千回を迎えた時、台風の中
にお祝いにかけつけてくれて、い
しよに掃除をしてくれた大親友。
伊東駅から会場まで、鎌倉四ツ寺
の横田南嶺管長と日本を美しくする会前会
長の田中さんと三人で海瀬さんの車に乗せ
てもらった。記念講演での横田管長の観音さ
まのこころ」という話にひき込まれた。

懇親会では、多賀城の小畑さん、埼玉の
安齋さん、所田の長尾さん、御殿場の廣倉
さん、伊勢原の腰塚さん、大阪の渡部さん、
兵庫の木南さんたちと面会を喜んだ。
地酒の「赤城山」を三本持つていった。
二次会ではカラオケだった。小林さんと男
同士で「麦畑」を歌った。「♪おらも前か
ら松ッッあんを好きだと思っってたさ」の
セリフを聞いて、男心に男が惚
れた。「名月赤城山」を歌う前
に時分になってしまった。

冬ざれや喪中ハガキの淡き文字



暮れが近づき、毎日、
喪中ハガキが届く時節に
なりました。自分が年を
重ねるのに比例して、喪
中ハガキの数が年々増え
ているように思えてなりません。
十七年前、私の父の喪中ハガキ
が届きました。返事は期待してい
なかっただけに有難く思ったもの
でした。それ以来、喪中のハガキ
が届くと、故人や家族の心情を察
しながら返事を書いていきます。
今年も親しい友人や、長年文通
を続けてきた遠方の方との別れが
ありました。喪中ハガキが届くと
びに故人に手を合せています。